



ニチレイプロサーヴの取り組み

事業と環境負荷の特性

私たちが提供する事業支援サービスは、オフィスビルでの仕事を中心となることから、照明や事務機器の使用による電力消費、書類の印刷による紙の使用などが環境負荷の主な要因になります。このように、事業所で使用されるものや排出（廃棄）するものによる直接的な負荷の低減以外にも、事業支援サービスを通じてお客様の環境負荷低減に間接的に貢献できることも考えています。

2006年度環境目標と実績

各部より環境担当者を選任し、省エネやコピー用紙の削減に向けた活動について、意見交換や具体的な定量目標を設定するうえでのデータ収集を行いました。その結果、具体的な活動として、昼休みの消灯、両面印刷や縮小印刷による用紙使用量の削減などを実施し、成果を得ることができました。また、環境担当者自らが体験を通じて環境問題を感じるために、東京都清掃設備の見学や外部環境研修に参加しました。さらに、役員・部長を対象に、企業活動と環境の関わりを感じていただくことを目的とした社内セミナーを実施しました。

今後も、従業員の環境に関する意識を高める取り組みを通じて、目標達成をめざしていきます。



昼休みの消灯



役員・部長向けセミナー

2009年度までの3カ年目標と2007年度目標

	2007～2009年度目標	2007年度目標
廃棄物削減と再資源化	コピー用紙使用量削減 1人当たりの年間使用量7,000枚以下(2006年度は10,000枚)	9,000枚/人以下
地球温暖化防止	本社電力使用量を2005年度比15%削減(照明・コンセント)	2005年度比11%削減
グリーン購入の推進	● 文具:100%グリーン購入 ● 印刷物:100%グリーン印刷	基準の設定および実施
従業員環境意識向上と社会貢献活動の推進	● 環境教育への参加 ● 社会貢献活動へ参加 (2009年度に各活動それぞれへの参加率100%)	● 2007年度 本社 100% ● 2007年度 20%
マネジメントシステムの構築推進	ISO14001認証取得	取得に向けた準備

※ 上記以外のグループ2010年度目標についても事業活動に沿って継続的に取り組み実施

その他の環境負荷

化学物質管理

有害化学物質の取扱いや、大気/水域への排出などについては、法規遵守を原則とし、事業所ごとに負荷に応じたテーマおよび目標を設定しています。

PCBの管理

現在、PCB含有のコンデンサーなどを約300基所有しており、法に定められた基準に従って保管し、保管状況を届け出しています。

今後、国の監督のもとPCB廃棄物処理を実施する全国5カ所の処理施設の操業計画に基づき処理を実施していきます。2006年度は処理を実施しませんでしたので、適切な保管管理を継続しました。

PRTR対象物質の管理

2006年度はPRTR法※届出対象物質(取扱量1トン以上)は、ありませんでした。ニチレイグループは化学物質の適正管理を継続実施するとともに、その使用による環境負荷の低減に努めていきます。

※ PRTR法:
人の健康や動植物の生息、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律

フロンの使用・管理

食品工場や物流センターの冷凍設備の冷媒として、主に指定フロン(HCFC R-22)を使用しています。冷媒は、密閉された冷凍設備の中で循環しているため、大気へ放出されることはほとんどありませんが、冷凍設備のメンテナンス時などに少量の洩れが発生します。

指定フロンは、オゾン層破壊や地球温暖化の原因物質といわれており、2020年には全廃されます。このため、自然冷媒(オゾン層破壊係数・地球温暖化係数が小さな冷媒)などへの代替を進めています。

2006年度は、(株)ニチレイフーズ森工場、関西工場にて自然冷媒を活用した冷却システムを採用しました。

アスベストへの対応

2005年度に使用状況の調査を実施した結果、4カ所の事業所で飛散の恐れのある石綿(建物の屋根などへの吹付け)の使用が確認されましたので、除去などの飛散防止措置を実施しました。また、事業所の閉鎖などにより建物や設備の解体を行う際には、関係法令や規則を遵守し、適切な石綿の飛散防止策を実施しています。

土壌汚染への対応

土地の売却や賃貸時には適切な情報開示を実施するとともに必要に応じて、土壌汚染状況の調査および適切な対応を実施しています。

2006年度は、(株)ニチレイフーズ博多工場および(株)姫路アリーナ跡地の調査を実施しました。

水域・大気への排出抑制

水域への排出

食品工場で洗浄に使用した水は、有機物(食品のかすなど)や洗浄剤、殺菌剤などを含んだ排水となりますが、法律で定められた排出基準以下になるように処理したうえで、工場外に排出しています。

2006年度は、(株)ニチレイフーズ森工場増設時に廃水処理設備の増強を実施しました。

大気への排出

食品工場では、加熱や洗浄のために使用する重油やガスなどの燃焼時にNOx(窒素酸化物)やSOx(硫黄酸化物)が発生します。各工場では、ボイラーなどの燃焼設備を適正に運転・管理するとともに、法律で定められた排出基準を遵守し、総排出量削減を図っています。

また、事業所構内に停車する車両に、アイドリングストップを呼びかけたり、エンジンを停止しても冷凍車の冷凍機を動かせるように専用の電源を設置するなど、物流車両の排気ガスやCO₂排出削減にも取り組んでいます。

また、配送に使用されるトラックからのNOxやPM(粒子状物質)を低減するための取り組みも実施しています。

(→詳しくはP35をご覧ください)